

為替週間展望 = ドル円は高値圏でもみ合いが継続か

[10月10日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月3日～10月7日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	144.68	145.30(3)	143.53(5)	145.00	+0.26
ユーロ・ドル	0.9803	0.9999(4)	0.9753(3)	0.9777	-0.0025

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,116.11	+1178.90	日本10年債利回り	0.251	+0.007
ダウ平均株価	29,926.94	+1201.43	米10年債利回り	3.824	-0.005

<来週の主要経済統計等>

- 10日 国際通貨基金 (IMF) と世界銀行の年次総会 (16日まで、ワシントン)
- 11日 日本8月経常収支
英9月雇用統計
IMF世界経済見通し
- 12日 日本8月機械受注
英8月鉱工業生産指数、英8月製造業生産指数、英8月貿易収支
ユーロ圏8月鉱工業生産指数
米9月生産者物価指数
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨 (9月20～21日分)
20カ国・地域 (G20) 財務相・中央銀行総裁会議 (13日まで)
- 13日 独9月消費者物価指数
米9月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数
- 14日 中国9月生産者物価指数、中国9月消費者物価指数
中国9月貿易収支
スイス9月生産者・輸入価格
ユーロ圏8月貿易収支
カナダ8月製造業出荷、カナダ8月卸売売上高
米9月小売売上高、米9月輸入価格指数
米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】ドル円は28日に米長期金利の低下を受けて144円近辺まで下落したものの、その後は下げ渋りを見せている。利上げを継続する米連邦準備制度理事会 (FRB) と、緩和姿勢を継続する日銀のスタンスの違いから、ドル円は底堅い推移を見せており、緩やかな上昇基調が続くとした。

【ドル円は底堅い動きが続く】

ドル円は143～145円台での振幅が続いている。145円台では上値を抑えられやすくなっている。3日に145.30付近まで上昇を見せたが、一時的な動きにとどまり、145円を割り込んだ。その後、6日と7日に145円台に乗せたものの、その水準から上値を伸ばしにくい状況を見せている。

米国株式市場では、今後は世界の主要中銀による利上げペースが減速するとの見方から、3日と4日に米長期金利が低下して、この2日間でNYダウは1590ドル超の急騰を見た。リスク選好のドル売りとなり、ユーロドルは1.0000ドルの手前まで上昇したものの、その後は軟化している。ドル円は5日の東京市場で、143円台半ばまで下落したものの、売り一巡後は144円台に戻すなど、下げは続かなかつた。

4日の豪中銀（RBA）は政策金利を0.25%引き上げた。大方の事前予想では0.50%の利上げとみられていただけにサプライズとなった。利上げそのものは6会合連続となった。各国中銀が利上げを続けてきたものの、今後、利上げペースが実際に鈍化するかどうか注目される。ただ、米国をはじめとして、主要国での消費者物価指数の上昇率が明確に減速するまでは、利上げペース減速への過度な期待は禁物とみられる。

こうした中、米連邦準備制度理事会（FRB）当局者からはインフレ抑制へ向けて、利上げに前向きなタカ派的な発言が多く出ている。5日にサンフランシスコ連銀のデイリー総裁は、「インフレ抑制のための利上げに断固とした姿勢で臨む」「必要に応じてさらに利上げを行うと見ている」などと述べた。また、「2023年の利下げは考えていない」との認識を示した。

6日にはミネアポリス連銀のカシュカリ総裁が、「インフレについて、より多くの成すべき作業がある」「利上げの一時停止はまだかなり先になる」との見解を示した。また、FRBのウォー理事は、「インフレは目標からほど遠く、来年初めにかけて利上げ継続が必要」との見解を示した。

CME FEDウォッチでは次回11月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.75%の利上げ確率は76%程度となっており、0.50%の利上げ確率が24%前後となっている。9月のFOMCでの政策金利見通しでは、今年あと1.25%の利上げが見込まれており、11月の会合で0.75%、12月の会合で0.5%の利上げがあるとの見方が広がっている。

ドルインデックスは9月28日に114台後半まで上昇して約20年ぶりの高値を付けた。その後は修正安に転じて4日に110近辺まで下落した。売り一巡後は下げが一服している。ドルは売られたものの、日米の金融政策の違いから円も売られやすくなっていたことで、ドル円は143～145円台のレンジ内でのみみ合いが続いている。

FRBは利上げ姿勢を継続、日銀は緩和姿勢を継続となり、ドル円は底堅い推移が続きそうだ。一方で介入警戒感もあり、上値は抑えられやすい展開となりそうだ。こうした中、ドル円は143～145円台の推移が継続するとみられる。ドル買い円売りが加速すると、9月22日の高値145.90を一時的に上に抜ける可能性も出てきそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、143.00～146.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、11日に日本8月経常収支、12日に日本8月機械受注、米9月生産者物価指数、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨、13日に米9月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、14日に米9月小売売上高、米9月輸入価格指数、米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルはパリティ付近では上値重い】

ユーロドルはウクライナ情勢でのロシアの強硬姿勢、ドル高の進行などを背景に9月28日に0.9536近辺まで下落した。その後は上昇に転じた。4日には8月ユーロ圏生産者物価指数が前年比+43.3%と過去最高を記録したことなどからユーロ買いの動きとなり、ユーロドルは0.9999まで上昇して、パリティ（1ユーロ=1.0000ドル）まであとわずかと迫った。

ユーロ圏でのインフレ率の高さや欧州中央銀行（ECB）による大幅な利上げ観測がユーロ圏の景気減速につながるとの見方が広がり、ドルの強さもあって、ユーロドルは上値を抑えられた。ユーロドルは強弱感が交錯する中、レンジ相場が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9600～1.0100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、11日に英9月雇用統計、12日に英8月鉱工業生産指数、英8月製造業生産指数、英8月貿易収支、ユーロ圏8月鉱工業生産指数、13日に独9月消費者物価指数、14日に中国9月生産者物価指数、中国9月消費者物価指数、中国9月貿易収支、スイス9月生産者・輸入価格、ユーロ圏8月貿易収支、カナダ8月製造業出荷、カナダ8月卸売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。